

JCS NEWS

チェロがあるかぎり
チェリストがいるかぎり

CONTENTS

第11回チェロの日開催報告	2-3
公開マスタークラス開催報告	4-5
Cellist's update	6-7
メンバーズ	8
事務局からのお知らせ	
編集後記	

第11回

チェロの日 Report

二人のヤングチェリストによる
PRE-CONCERT



© 藤本宗

Tsuyoshi Tsutsumi
マスタークラス
開催報告



© 池上直哉



チェロの日 Report

Photo: ©藤本 崇

第1部 横坂源 (Cello)・津田裕也 (Piano)

第11回の「チェロの日」。募集を始めたころは感染者数も落ち着き、「チェロでひとつになる日」を行えなかった前回のリベンジと、皆様の練習にも熱を感じ、開催を心待ちに日々過ごしておりましたが、年明けより急に猛威を振りだしたオミクロン株の影響により、残念ながらこの度も初日の「チェロと仲良くなる日」の開催のみとさせていただきます。

直前まで熟考を重ねましたが、誠に残念ながら今回もこのような形となり、参加予定だった皆様には、ご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

チェロと仲良くなる日

昨年と同様、2月6日の「チェロでひとつになるコンサート」の中止に伴い、若手奏者のお二方には前日5日の「チェロと仲良くなる日」の、公演開場時に同会場にてプレコンサートという形でご出演していただきました。今回は桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)2年に在籍の西田翔さんと、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校3年に在籍の佐藤響さんの出演です。

最初に登場した西田翔さんは、バッハの《無伴奏チェロ組曲第6番》より《プレリュード》、サラバンド、ガヴォット、ジグ舞曲、後半に登場した佐藤響さんはクラムの《無伴奏チェロ・ソナタ》を演奏されました。

数々のコンクールで賞をとられているお二方は、急な変更にも動じず、堂々と若さ溢れる素敵な演奏をそれぞれ披露されていました。

「チェロと仲良くなる日」の本編「チェロと仲良くなるコンサート」の第1部は、横坂源さんとピアニストの津田裕也さんによる演奏にてはじまりました。横坂さんは桐朋学園女子高等学校(男女共学)、同ソリストディプロマ・コースを経て、シユットガルト国立音楽大学、並びにフライブルク国立音楽大学で研鑽を積まれました。全日本ビバホール・チェロコンクール

での最年少優勝(15歳)を初め、第15回「出光音楽賞」、第7回「齋藤秀雄メモリアル基金賞」、全ドイツ学生音楽コンクールで第1位(室内楽)を、また第59回ミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門で第2位を受賞とコンクールでの受賞歴を多数もちで、現在、国際的なチェリストとして活躍されています。今回横坂さんは、ショパンの《チェロ・ソナタ》短調 作品65を演奏されました。

第2部は辻本玲さんと、ピアニストの沼沢淑音さんの演奏でした。辻本さんは、東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業し、その後ロームミュージックファンデーションより奨学金を得て、シベリウス・アカデミー(フィンランド)、ベルン芸術大学(スイス)に留学されています。第72回日本音楽コンクール第2位、併せて「聴衆賞」受賞。また第2回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)され、現在は、NHK交響楽団首席チェロ奏者として活躍されています。今回演奏された曲目はラフマニノフの《チェロ・ソナタ》短調 作品19でした。

横坂さん、辻本さん、国際的に活躍されているお二方の演奏は素晴らしいだけでなく、それぞれの個性、曲に対する思いをしっかりと感じることができ、ショパンとラフマニノフ、それぞれの《ソナタ》の演奏は、聴衆を魅了した時間となったことと思います。

第3部は辻本さんと横坂さんのデュオでの演奏でした。国内外で活躍されているお二方のデュオは今回が初めてだそうです。演奏された曲目はバッハ(Claudio Jaffe and Johanne Peris編)の《無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番》より《シャコンヌ》(チェロ2重奏版)、パガニーニ(ヴェルナー・トーマス版)の《モローゼの主題による変奏曲》(チェロ2重奏版)、ボルサレットの《タンゴ・トリステ》の三曲を、アンコールには、サン・サーンス(編曲 Sebastian Combert)の《白鳥》を演奏していただきました。前号でのインタビュアにあったように、初めての共演をお二方も楽しんでおられ、演奏からもその楽しさが伝わってくるような時間で、聴衆を最後まで引き込んでいました。

昨年につづき、今年もオンライン配信を実施。ライブ配信、リビート配信により、会場では見ることができない様々なアングルで視聴ができ、演奏会をどこでも楽しめるようになりました。配信を通じて、より多くのお客様に楽しんでいただけるようになったことも嬉しく思っております。

今年もチェロ・オーケストラの演奏が叶わず本当に残念でしたが、皆様の健康には代えられません。来年こそは、無事にチェロの日を迎えられることを祈るとともに、皆様にもまたお会いできる日を楽しみにしております。

企画担当理事より

F-053 長谷川 陽子



Photo: ©武藤 崇

2月に行われた「チェロの日」。二人の若い獅子の素晴らしい演奏と熱心なチェロ・ファンの気持ちが集約して、どっぴりとチェロの魅力に浸ることができた贅沢な時間となりました。

まずは、横坂源さんとピアノの津田裕也さんのショパンのソナタ。これが最初から素晴らしい。丁寧な、そしてよく考え抜かれた理知的な表現と、ショパンの内面に迫る熱さと繊細さのバランスが絶妙。少しスモーキーな音色の横坂さんの音色とショパンがびつたりマッチした名演でした。

そして続く辻本玲さんと沼沢淑音さんのラフマニノフのソナタ。辻本さんの魅力は外に発散するエネルギーと煌びやかな音色とありますが、ラフマニノフの輝かしく深いハーモニーにびつたりで、客席の熱気は上がる一方。

そしていよいよ第三部のお二人のデュオ。一見、音楽性や音色は正反対のような印象のお二人ですが、それがまたなんとユニークな化学反応を起こし、鮮やかな演奏に客席の興奮は最高潮を迎えました。演奏された曲目もセンス抜群で、聞き終えた後は耳も心もおなかいっぱい大満足!そんな「チェロの日」でした。



第3部 辻本玲 (Cello)・横坂源 (Cello)



第2部 辻本玲 (Cello)・沼沢淑音 (Piano)

プレコンサート出演者より

S-138 西田翔



Photo: ©村井重人

チェロの日の演奏のお話をいただいたとき、本当に嬉しかったです。自分にとって、一つの夢が叶ったと思いました。私が初めてチェロの日に参加したとき、大分県に住んでいた小学校2年生の時、日本の巨匠の先生方と、チェロを弾かれる大人の方達(プロのように上手い人達)と一緒に演奏でき、本当にワクワクしたのを覚えています。あれから9年が経ち、自分が無伴奏を弾かせていただけること、先生方と並んでチェロアンサンブルに参加できることになり、チェロを頑張ってきたよかったです、という思いでいっぱいでした。残念なことにコロナの影響で、2日目のチェロの日は中止になり、チェロアンサンブルがなくなりまして。そのため、1日目の横坂源さんと辻本玲さんの演奏の前にプレコンサートとして演奏させて頂けることになりましたが、バッハの6番を選んでしまったことを少し後悔しました。やはりバッハの6番は難しく、ブルローズで演奏するには、自分がまだ未熟すぎることを実感し、それはとても勉強になりました。ですが、私の大好きなバッハの6番をチェロの日に演奏できたことはとても嬉しかったです。そして、1番に演奏を終えた後は、横坂さんと辻本さんの演奏を楽しむことができ、プロの演奏の凄みや音色の深さや美しさを感じ、とても



S-229 佐藤響



勉強になりました。日本を代表するチェロの先生方と並んで、アンサンブルをするのはもう機会がないかもしれないので、それだけは本当に残念でしたが、開催にあたりチェロ協会の方々がギリギリまで色々な努力と調整をしてくださったことに感謝しています。私は、またいつかチェロの日に呼んでいただけるように、今後も、日々精進したいと思っています。

この度は、第11回チェロの日に参加させていただきまして、ありがとうございます。コロナ禍のなか、2日目の公演が中止になるなど、運営なさる方々のご苦労のなか、プレコンサートとして演奏の機会を頂戴しましたことに心から感謝しております。演奏させて頂いたクラムの無伴奏チェロソナタは、全曲を聴いた時に、困難や絶望に打ち勝とうとする強い意志のようなものを感じ、難しいですが、いつか弾きたいと思っていた曲です。当日は、会場にいらした先生方やお客様の雰囲気、真剣でも暖かく感じられ、集中して心を込めて演奏することができました。私は今春から大学生になります。世界が激変していくなかで、自分がチェロの演奏を通じて何ができるのか。今、チェロを弾けることの有難さと喜びを感じながら精進していきたいと考えております。本当にありがとうございます。

VOICE

R-038 松江雄二

今回、久しぶりに、チェロ・オーケストラに参加をエントリーし、楽譜をいただいで練習などの準備をしておりました。倉敷市在住で、事前練習に参加できないので、前日リハに集中しようと思っておりました。しかし、オミクロン株拡大により、残念ながらチェロ・オーケストラ演奏は中止となってしまいました。でも、ほかの演目はそのまま実施されること、コロナ禍でもあり、相当迷いましたが、上京することにし、2月5日の公演をききました。最前列の席をご用意いただきました。

プレコンサートで、西田さん、佐藤さんの若いお二人の演奏をきき、熱いものがこみ上げてきました。コロナ禍にあっても、なお日々精進されていることがひしひしと伝わりました。

本コンサートでは、辻本さん、横坂さんの演奏を聴きました。さすがに実力あるチェリストで、パワーに圧倒されました。無理を押しして来た甲斐がありました。次回こそ、楽器持参で参加したいと思います。



Master Class

01月

Tsuyoshi Tsutsumi

堤 剛

公開マスタークラス

Photo: ©池上直哉

開催日：2022年1月20日（木）
会場：サントリーホール ブルーローズ（東京都港区）
講師：堤 剛
受講生：3名 伴奏者：2名
来場者数：81名（会員39名、非会員35名、関係者7名）

S-244 河田 実聖

ピアノ：田中 英明

今回受講曲に選んだ「ロココ風の主題による変奏曲」は、昔から憧れていた曲だったものの、まだ人前で弾く自信はなく、増してリサイタルが開かれるようなホールでの公開マスタークラスは、直前まで足がすくむ思いでした。

緊張しながらステージでロココを弾き始めたとき、ブルーローズの響きの豊かさに嬉しくなって、次第に楽しく演奏することができました。夢中で曲を弾ききった後にいただいた拍手に、聴講してくださった方々のあたたかさを感じて、その後の堤先生のご指導を落ち着いて受けることができましたと思います。

曲については調べていたつもりでしたが、堤先生のお話には目から鱗が落ちるようなことも多く、自分の勉強不足を反省するとともに、先生の豊富な情報量に驚きの連続でした。

内容も、具体的な例を出してお話して下さるので分かりやすく、故斎藤秀雄先生の曲の解釈やロストロポーヴィチの演奏方法等も教えていただき、この曲のイメージがより鮮明になりました。

テクニックについては、理解できるようになるまで教えていただいて、左手だけでなく右手の使い方、曲の間合いや準備をすることの大切さ、またロシア音楽の「寄りかかる」、小節線を越えたフレーズの取り方をじっくりご指導いただき、それまでの演奏がモノクロからカラーになったように感じました。

この日に学んだすべてが、とても貴重な経験となり、凝縮された濃厚な時間でした。

最後になりましたが、今回、このようなマスタークラスを企画して下さり、参加する機会をくださったチェロ協会の皆さまに感謝申し上げますとともに、今後も一層精進していこうと思います。本当にありがとうございました。

S-245 劉 心語

ピアノ：松本 望

このたびは、サントリーホールブルーローズで堤先生のマスタークラスを受講させて頂き、誠にありがとうございました。堤先生に初めてお会いしたのはピバホールチェロコンクールのコメントタイムでしたが、海外滞在が長かったため、日本語が上手に話せない私に先生が丁寧に英語でコメントを下さったことが心に残っていました。

今回は、シューベルト作曲『アルペジオーネ・ソナタ』で受講しました。シューベルトの作品は弾くたび表現の難しさに気づく作曲家で、華やかな歌曲であるようなところでも自身の闇で包まれた人生を語る裏味があるような、表裏のある音楽の表し方に自分は何度も戸惑いました。そんな私の演奏に、先生はまず私の欠けている自然な歌い心のような要素を引き出してくださいました。例えば、私が緊張の余り演奏に合わせる呼吸が上手く出来なかった時、どのような音を作りたいのか、その音がフレーズに対してどのような役割を果たすべきなのかで、呼吸を合わせる事がとても大事だとアドバイスを頂きました。そして、よりシューベルトの魅力を上手に引き出すために、曲の中で次々と出てくる旋律の表現にイメージを合わせる事ができるよう、先生は具体的に教えてくださいました。その瞬間、曲との距離がまた短縮されたことが、実感できました。

さらに、この曲だけではなく、チェロという楽器を通して聴者の皆様に何かを伝えようとするために必要なヒントをたくさん頂きました。将来的に、自分の演奏が理想に近づき、人に魅力を感じさせる演奏者を目指して頑張っていきたいと思います。

最後に、新型コロナウイルスの影響でたくさんの困難がある中、このような素晴らしいマスタークラスを開催して下さった日本チェロ協会の皆様に、心から感謝申し上げます。



開催報告

1月20日(木) 堤剛氏を講師に迎え、受講者3名によるマスタークラスを開催いたしました。平日の夜にもかかわらず会場となったサントリーホールには、多くの学生やチェロ愛好家が集まりました。演奏家として、教育者として、名実ともに日本を代表するチェリストである堤先生の公開レッスンは、3部に分かれ、休憩を挟みながら各部40分ずつ行われました。受講生の方には、新型コロナウイルス感染症対策として最初の演奏時以外はマスクをつけていただき、講師との距離をあげながらのレッスンとなりました。

最初の受講生は、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校に在籍の劉心語さん。シューベルトの《アルペジオーネ・ソナタ D821 第1楽章》を演奏されました。第2部は、桐朋女子高等学校音楽科に在籍の河田実聖さんにより、チャイコフスキーの《ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 Op.33》が演奏されました。第3部に登場いただいたのは、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校に在籍の滝川桃可さん。ハイドンの《チェロ協奏曲 第2番 二長調 第1楽章》を演奏いただきました。

瞬時に演奏の長所と課題を見極め、細部にわたる技術的なアドバイス、そして作品の解釈、イメージの描き方などを堤先生が説明なさるたび、受講生の演奏、作品の魅力がより引き出されていきました。その演奏の変化に、身を乗り出すように耳を傾けていらっしゃる聴講生の姿が多く見られました。

昨年11月に予定されていたアラン・ムニエ氏の公開マスタークラスは、コロナ禍による来日中止に伴い残念ながら中止となりましたが、今年10月25日に再びムニエ先生のマスタークラス開催が決定いたしました。今秋のご来日が叶い、より多くの皆様に足をお運びいただけること心より願っております。



S-210 滝川 桃可

ピアノ：松本 望

この度、堤剛先生の公開マスタークラスという形で、素晴らしいホールで、チェロが大好きな皆さまの前で演奏すること、大変身が引き締まる思いでございました。しかし当日は、会場も楽屋もステージも、堤先生やスタッフの方々の温かい空気に包まれていて、舞台に出ると、とても幸せな気持ちが溢れました。

今、堤先生にいただいた言葉のエッセンスが、日々チェロに向き合う中で浮かんでいきます。

「フレーズは、自分の考えや意見を述べる言葉・相槌」「あの川に、こんな橋を架けたらどうだろうか」と、面白い例えをしてくださいました。私の中で「フレーズ」という言葉は「橋」を連想させ、そのイメージがつながりました。

また、堤先生のお話を伺っていると、チェロは楽器というよりも、まるで友人のようで、どう弾くかというより、どう付き合うか、という感覚を味わいました。「親指は指板の裏にあってもいいんですよ」と、私がチェロを弾き始めたころから持つ《ハイポジションの時は親指は指板の上》という固定概念の中、目から鱗の工夫でした。また、右手の各指の役割など、堤先生の一言のアドバイスで、色々な個所が、とても楽に弾けるようになりました。

私が音楽を奏でる上で、今後、最も大切にしていきたいと感じたことは、〈音楽を奏でることは、言葉を伝えること〉。作曲家とその時代を知り、私自身が感じたものを、ただ歌うだけでなく、言葉やメッセージとして喋る。それが聴いてくださる方々の心に、まっすぐに届けられる人になりたいと思います。

最後になってしまいましたが、素晴らしい機会をくださった、日本チェロ協会の方々には、大変なお心遣いをいただきました。どうもありがとうございました。



Cellist's Update



R-606 Ludovit KANTA

ルドヴィート・
カンタさん

1. 近況を教えてください

チェロを弾いています。オーケストラアンサンブル金沢を2019年に退職し、今はフリーで活動しています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

両親は歌手でしたので、仕事柄歌劇場の練習でオーケストラを見る機会があり、色々ある楽器の中でもチェロの音色に惹かれました。そして、自分でも弾いてみたいと思いました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

登山の前の日の荷造りをしている時です。それとチェロを弾くときはいつも楽しいです。素晴らしいホール、ピアノ、お客さん、プログラムなど…いい状況がマッチしたときは私もとても気持ちよく弾けるなと思います。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

山ほどあります。写真を撮り、加工したり現像したり…写真についての本を読んだり。空手は17年やっていて今でも大好きです。黒帯四段師範代として週2回教えています。組手の練習や型の練習など日々学びがあって楽しいです。

それに山登りも昔から大好きです。若い頃はスロヴァキアで登山ガイドもしていました。最近では15kg痩せたので、また山に沢山登りたいなと思っています。日本には魅力的な山が沢山ありますね。

5. チェロ以外に経験した習い事などありますか？

前述した空手と写真を習ったことがあります。写真は、New York Institute of Photographyで勉強しました。空手は今でも習い続けています。

6. プロのチェリストを目指している学生や若いチェリストに望むことはありますか？

もちろん楽器の使い方を理解し、音を奏でることはまず大事、音楽はemotionのコミュニケーションということをお忘れしないで、音楽でコミュニケーションしてほしい。自分の好きな音楽をやしてほしい。音楽家の世界はパーフェクトを求められることもあるが、パーフェクトはそんなに重要ではない。自分なりの音楽を作り出して楽しんでほしい。自分の中の良い音楽を追い求めてほしい。

7. 後進のご指導をされる中で、ご出身地のスロヴァキアとの違いを感じることはありますか？

ないです（日本人は日本語喋ってるという違いはありますが・・・）音楽の感じ方、わかり方、勉強の仕方は国籍関係なくどの国でも同じことだと思います。音楽はuniversalで音楽のコミュニケーションは感情emotional。Emotionは国籍関係なく人間共通のものだと思っています。

Upcoming Events

八雲オーケストラ定期公演

日時/2022年6月12日(日) 14:00 開演

会場/杉並公会堂 大ホール

出演/指揮：武藤英明

チェロ：ルドヴィート・カンタ

管弦楽：八雲オーケストラ

曲目/ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 Op.104、他

上記公演以外に、ウクライナの状況を受けて
3月から各地でチャリティコンサートを行っています

7. 過去にご参加されていた当協会のジュニア・チェロ・キャンプの思い出などございましたらお教えてください

1番は堤先生のレッスンを受講できたことです。大分で、鈴木先生の教本をやっていた頃からずっと堤先生のCDを聴いていました。また鹿児島に引っ越してからは霧島音楽祭で堤先生の演奏会に行ったことも何度もありました。

なのでずっといつか堤先生のレッスンを受講したいと願っていました。その願いが叶ったときは本当に嬉しかったです。また先生方やたくさんの若いチェリストとアンサンブルできたことは本当に楽しかったです。

Upcoming Events

西田 翔 チェロコンサート

日時/2022年6月4日(土) 13:00 開演

会場/河口湖 音楽と森の美術館コンサートホール

演奏会の詳細は未定ですが、河口湖音楽と森の美術館の一年で一番美しい時期での演奏会で、私も楽しみにしています。バラが満開を迎え、天気によければ富士山も眺められます。メインホールでは豪華客船タイタニック号に積まれる予定であった自動演奏楽器や、まるでオーケストラを奏でるような大型のオルゴールが展示され、オルゴールの演奏も大変魅力的です。

第75回全日本学生音楽コンクール 全国大会入賞者記念コンサート

日時/2022年6月26日(日) 14:00 開演

会場/島村楽器(株)シマムラストリングス秋葉原 店舗特設会場





R-650 Risa GRAY

グレイ 理沙 さん

1. 近況を教えてください

1年半前に留学を終え日本に帰ってきて少しずつ演奏のお仕事を始め頑張っているところです。

オーケストラにもたまに行きつつ、最近では好きな仲間と定期的に集まり弦楽四重奏の勉強をまた一から勉強し直したりなどしています。あとは劇版などのレコーディングをする機会が増え、それがまた求められる事が全然違ったりするの日々研究をしています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

音楽一家ではないのですがまず姉がヴァイオリンを始め、隣の部屋がチェロのお教室だったので妹ちゃんはこっちやる〜?と先生に誘っていただいたのがきっかけというのと、アメリカ人の祖母にあなたヨーヨーマ知らないの!?こっちは有名だよ!とCDを聞かせてもらい、ちょうどその後くらいに日本のCMにヨーヨーマが出演しておりこれはもうチェロしかない!という流れだった(と書いていた気がします笑)。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか?

これは皆さん共感してもらえると思うのですが、毎回新しい方と共演する時はワクワクします。どんな音楽をして、合わさるとどんな化学反応が起こるのだろう・・・!と。また別のプログラムで同じ方と共演するときも、この曲ではどうなるんだろうかと考え毎回ワクワクしています。

4. チェロ以外に好きなことはありますか?

こと、ではないですが毎日コーヒーを飲むのを楽しみに朝起きています。1ヶ月禁酒です!と言われるより、コーヒー1杯まで!と制限される方が辛いです、あとはたまにリサゴロウと呼ばれるほど動物が好きで、職業間違えたかな?サファリパークに転職した方がいいかな!?ってなるときがあります。

5. チェロ以外に経験した習い事などありますか?

習い事はないですが、強いてあげるとしたら実は昔茶道部でした。その顔!と何度もいじられました笑。

6. 今後、どのようなチェリストになっていきたいですか?

これまでに私は音楽から色んなものをもらってきました。時には救われたり元気をもらったりもしました。人生を終えた時にもらってばかりだとそれはこの世に残らず消えてしまうので、私も誰かに与えられる人間になりたいな、と、そういう演奏を1回でも出来るような音楽家になれたらなと、今はそれが人生の目的になっています。

7. 留学先(パリ国立高等音楽院)の授業、生活などにおける日本との違いは、どのようなところに感じましたか?

それはもう全然違いますが、、1番難かったのは自分の教授のレッスンの他に、教授のアシスタントが2人いて彼らのレッスンも毎週受けられることでした。なので週にソロを3人の先生に見ていただけるという贅沢な生活で、この先生にはエチュード、この先生は現代曲のプロなので現代曲を、、という風にしていました。あとは他の授業が全て少人数制で多くても12人までで、ソルフェージュはほぼマンツーマンでした。

それなのに学費がタダというのが、やはりヨーロッパは芸術文化に対するプライオリティが高いのかな、、と感じていました。東京行くよりパリに留学した方が安いと言って来てた人もいたので、留学を考えている方は是非!

Upcoming Events

有明ガーデン みんなのコンサート 2022 ～オーケストラと楽しむジブリの世界～



日時/ 2022年5月3日(火・祝)

14:30開場 16:00開演

会場/ 東京ガーデンシアター

料金/

【SS席】 ¥8,000 (税込/全席指定)

【S席】 ¥3,000 (税込/全席指定)

【A席】 ¥2,000 (税込/全席指定)

【ウェルカムベビー席】 ¥2,000 (税込/全席指定)

出演/東京藝大コモゴモ交響楽団

コモゴモ展という藝大出身生によるアートイベントが一昨年から有明ガーデンというところで開催されており、いつも弦楽3重奏でコンサートさせていただいているのですが、なんと今回オーケストラ公演が決定しました。編曲も優秀な同期に頼む事ができ、素晴らしいオーケストラメンバーも集まってくれました。0歳からOKのご家族みなさままで楽しんでいただける演目です。

S-138 Syo NISHIDA

西田 翔 さん



Photo: ©村井重人

1. 近況を教えてください

桐朋で、ソロや室内楽を学んでいます。先日、みたかジュニアオーケストラとハイドンチェロ協奏曲第2番を弾かせていただき、大変勉強になりました。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

母が「おくりびと」という映画を見て、チェロの音色が素敵だなと思ったそうで、すすめられました。その映画の主人公が5歳からチェロを始めたというストーリーだったため、5歳になったときにチェロを始めることになりました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか?

練習していて成長が感じられたときです。

4. チェロ以外に好きなことはありますか?

クラシックバレエの鑑賞です。たまにボーリングに行くのも好きです。

5. チェロ以外に経験した習い事などありますか?

クラシックバレエは、チェロより前に始め、小学生のときにはコンクールに出たり、「くるみ割り人形」や「 Coppélia」の作品で踊ったりもし、ローザンヌを夢見ていた時もありました。他には、ヤマハでピアノや作曲を学びました。

6. 今後、どのようなチェリストになっていきたいですか?

聴く人の心に、何か伝えられるような演奏ができるチェリストになりたいです。



1999年10月カザルスホール（シュタルケル氏マスタークラス）

日本チェロ協会の濫觴

御茶ノ水にあった511席のカザルスホールではチェロ音楽がその目標のひとつになっていた。興行的には冒険だと思われた企画（カザルスの誕生日の前後にバッハのチェロ組曲を一曲づつ入れた6日連続のリサイタル）も、本当に3000人が聴きにきてくれるか心配をしていたのだが、毎回チェリストの皆さんの協力で満席に近い聴き手が集まった。その企画を進める中で、同じチェリストでも本当に多様な考え方でプログラムを組むのだから驚きと、他のチェリストのことを慮ってプログラムを作る（譲り合い精神？）演奏者同士の心のつながりを温かい気持ちで感じていたことを思い出す。1996年に長い付き合いだった徳永兼一郎さんが病気で亡くなったことから、チェロ界に対する気持ちが少し変わったところにチェロ協会を創りたいという話を持ち込まれた。協会を纏める自信は全くなかったとはいえ、カザルスホールの相棒だった箕口さんと細々とチェロ協会の事務局を作った。今ならNPOのような全員が平等な組織は当たり前になりつつあるが、当時こういう協会組織の運営はどうして良いのかわからないまま始めたような気がする。その意味で、25年が過ぎるチェロ協会が今もフラットな組織で運営され、アマもプロも同じ目標を持って役割を果たすような組織になっていて嬉し

いことだと思

WELCOME

2021年度 新規入会者のご紹介（ご入会順）
今年度は、新たに23名の方に加わっていただきました。

正会員 20名

- | | |
|----------|----------|
| 音川 健二 さん | 林 之成 さん |
| 杉山 麻梨子さん | 平井 康文 さん |
| 増田 怜史 さん | 津久井真里子さん |
| 石井 紀子 さん | 東郷 玲子 さん |
| 倉富 岳生 さん | 西東 順子 さん |
| 加藤 健太郎さん | 村田 敬寛 さん |

学生会員 3名

- | |
|----------|
| 劉 心語 さん |
| 大高ひより さん |
| 林 成 さん |

- | |
|----------|
| 津田 佳子 さん |
| 矢崎 考二 さん |
| 櫻井 詩音 さん |
| 土屋 耕一 さん |
| 名川 文清 さん |
| 楊 揚 さん、他 |

事務局からのお知らせ

2022年度主催イベントのご案内

■第6回ジュニア・チェロ・キャンプ
日時：2022年9月24日（土）、25日（日）（予定）
講師：堤剛氏、中島顕氏、山崎伸子氏
会場：桐朋学園大学 調布キャンパス

■マスタークラス
日時：2022年10月25日（火）
会場：サントリーホール ブルーローズ
講師：アラン・ムニエ氏

■第12回チェロの日
日時：2023年2月4日（土）、5日（日）
会場：サントリーホール ブルーローズ

編集後記

春の陽気と共に、今年度がスタート致しました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

コロナ禍となり、はや二年。二年前はこんなにも我慢の生活が長引くとは誰が想像できたでしょうか。二年たっても次々と変化するウイルスに、チェロ協会でも思うように催し物ができず、心苦しい日々ですが、その度に会員の皆様のあたたかいお言葉、また、ご理解とご協力に感謝申し上げます。今年こそは、例年通りの形でなくとも、新たな形でも前に進み、イベント等が開催できるように当協会も企画を進めてまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますよう、心よりお祈り致します。

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

チェリストを探す



公演情報



一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第59号 2022年4月14日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤剛
編集 日本チェロ協会事務局
編集協力 株式会社アイデアリズム